



第4回

森に生きる

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

わたしの友人に、江本守男さんがいます。

牛とミツバチをかい、いつか理想郷をつくろうと、江本さんは少年時代に、霧降高原に開たくにはいりました。昭和二十三年のことです。

さいしょの十五年ほどは、野菜をつくっても野生動物たちに食べられることはありませんでした。やがてサルとシカのむれに畑をあらされ、ミツバチの巣箱はクマになめられるようになりました。

それでも江本さんに、動物をころそうという気もちは、まったくありませんでした。

森のなかには数万、いや億万の生物の世界があります。草も木も、わたしたちには見えない生物も、虫も魚も鳥も、もちろんサルもシカもクマも、それぞれにいつしよけんめい生きています。おなじように、人も生きなければなりません。自然のなかには、むだなものはひ

とつもないのです。

「いちばんむだなのは、人間です。」

江本さんはこういいます。むだなそんざいにならないように、人も自然のなかで調和して生きなければならぬ、という意味です。

山にすむ動物が畑をあらすようになったのは、山の自然林がたくさん切られたからです。そのあとには、スギやヒノキやマツが植えられました。スギやヒノキやマツは、シカやサルやクマのすきな実をつけず、葉も食べられません。

江本さんが開たくにはいったのも、動物たちの生活空間をうばったことなのです。もちろん江本さんは、そのことをよく知っていました。

その後、べっそう地やスキー場ができたりして、シカやサルの食べものは、ますます少なくなっていくのでした。

手づかみできるほど泳いでいたイワナも、川からすがたを消しました。

わたしの友人には、林業をやっている人もいます。その人はこんなふうにいいます。

「植えたばかりのスギやヒノキのなえや、ようやくそだった木の皮が、シカにはがされて、食べられてしまう



今回の問題文

江本さんの「理想郷」とはどのようなところなのかな。

問一

①、畑が動物たちにあらされるようになったのはなぜですか。その理由を説明した次の文の（ ）にあてはまる言葉を、文中から十二字で書きぬきなさい。

動物のえさになる実や葉をつける山の（ ）から。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

問二

②、江本さんに動物たちをころそうという気もちがないのはなぜですか。その理由としてあうものを次の中から一つえらび、記号を○でかこみなさい。

ア 動物が生きるためにえさをさがすのはしかたないから。

イ また野菜はすぐできるので、畑をあらされてもかまわないから。

ウ 動物をころすのは自分ではなくほかの人の仕事だから。

エ 動物となかよくなれば、畑をあらされないから。

問三

③、「いちばんむだなのは、人間です。」とは、どういうことですか。次の文の（ ）にあてはまる言葉を文中から二字で書きぬきなさい。

いろいろな生物がいる自然のなかで、人間がいちばん（ ）せずに生きているということ。

--

問四

④、「そのこと」とは、どのようなことですか。書きなさい。

学習時間

30分

学習日

月 日

んだ。いくら苦勞して木をそだてても、シカに食べられ
たら、生活できないしなあ。」

なえにあみをかぶせたり、さくをめぐらせたり、木に
薬品やくひんをぬったりしてシカに食べられないようにすること
もできます。けれど、お金がかかりすぎたり、薬品が雨
にながされたり、かんたんには、かいつでできないのです。
「自然を守らなければならぬのは、よくわかるんだけ
どなあ。」

と、^⑤ その人も、ふかくなやんでいるのです。

あせとなみだできりひらき、たがやした畑を、江本
さんは、時間をかけて森にもどしはじめました。理想郷
とは開たく地ではなく、ゆたかな自然のあるところだと、
考え方をかえたのです。

しずかに、しかしたしかに、木はそだっていきました。
自然を感じようとする人のために、江本さんは森をキャ
ンプ場にしたのです。

*理想郷りきじょう 多くの人がしあわせに生きられるような世界せかいのこと。

*霧降高原きりふたこうげん 栃木県日光市の北にある高原。

*開たくひらく 土地を切り開いて畑はたけなどにするこ

45

45

40

問五

⑤、どのようなことをなやんでいるのです
か。次の文の（ ）にあてはまる言葉を、あとのア
〜エから一つえらび、記号を○でかこみなさい。

自然は守らなければならないが、（ ）。

- ア 自然を守っても何もよいことはない
- イ きびしい自然とたたかうのはつらい
- ウ 自然を守るのは、とても時間がかかる
- エ シカのひがいをふせがなければ生活できない

問六

⑥、「理想郷」とありますが、江本さんの「理
想郷」に対する考え方は、はじめと今とではどのよ
うにかわりましたか。文中の言葉を用いて「はじめは
〜、今では〜」という形で書きなさい。

立松和平『森に生きる』

(講談社刊)

答えは『答えと考え方』